

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成27年 冬 第42号

看護師さんを
募集しています

あかり

A K A R I

ひつじ年の夢	1
フランスからのメッセージ	3
「病院フェア」が開催されました/セミナーと研修	4
神経内科とA2病棟の紹介	5
秋まつり/新人自己紹介/トピックス	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ 当院へのアクセス/本	8

ひつじ年の夢



明けましておめで
とうございます。

今年の干支は未。
未と書いて「ひつじ」
と読み、動物の羊が
当てられます。今更
ですが未と羊の関係を
調べてみました。

干支には本来の漢字が
あり「未」、後からそれらに

動物が当てられ「羊」、未とは「未熟な(つまりこれから伸びる)木の枝」、「成長途上の植物」を意味するのだそうです。今年は、将来の結実を願い今はじっくり育てる、そんな年のようです。みなさまのまいた種は順調に育っていますか？順調でなくても、焦ら

ず世話をしたらいつか実を結ぶ、そのための努力の
年と信じましょう。

当院の末年にちなんだ話題をふたつ。

てんかんの地域診療連携体制の整備

厚生労働省はてんかん診療に、一粒の種を用意してくれました。「てんかんの地域診療連携体制の整備」のための予算を初めて組んだのです。当初は10県のモデル事業です。てんかんは、100万人の患者さんがいながら、専門医は400人余りしかいません。てんかん診療の向上には、専門医や専門医療機関と非専門医の間の連携は必須でありながら立ち遅れていました。

脳卒中、がん、糖尿病、急性心筋梗塞などの病気で、地域連携クリティカルパスというシステムが各地で

導入されつつあります。地域連携クリティカルパスとは、複数の医療機関が治療計画を共有し、効率的で適正な医療を提供するための手段で、地域診療連携の要となるものです。脳卒中のように急性期の病院から回復期(リハビリテーション)病院、かかりつけ医と治療段階に応じて医療機関がバトンタッチする一方向性のパスと、糖尿病のように日頃の治療はかかりつけ医で行い、必要に応じて専門医療機関を受診するといった形で専門医と非専門医が協力する双方向性(循環型)パスがあります。後者の場合、慢性疾患が対象になりますから、予防・保健や福祉機関などとの連携を含んだより包括的なパスもあり、てんかんの地域連携パスのモデルになるでしょう。予算は国と県が半分ずつ負担することになっていますが、幸い静岡県は手を挙げてくれました。

麻機遊水地第3工区整備計画

もう一つ、今年大切に育てたい事業の芽が出ました。当院の目の前を流れる幅10mほどしかない巴川は、大雨のたびに氾濫し長年住民を苦しめてきました。昭和49年7月7日、日付にちなんで名づけられた七夕豪雨は史上稀にみるものでした。当院の1階の天井近くまで水が溢れ、官舎は水没、カルテは水浸しとなり、放射線機器は使えなくなるなど、当院に壊滅的ダメージをもたらしました。ところがこの豪雨が、結核療養所だった当院が日本で最初のてんかんの基幹施設に生まれ変わる契機をもたらしたのです。その後、洪水対策として遊水地が整備されました(当院の前は第3工区で広さ55ha)。その過程で、土中に埋もれていた希少植物が芽を吹いたのです。多数の野鳥が訪れ、ヘラブナ釣りの名所でもあることから、日本で2番目に自然再生協議会が設置され、活用方法が検討されました。当院も療養環境の改善を目的に協議会の会員となり、病気や障害のある人と自然の関りを計画に盛り込むことを要望してきました。ところが治水工事は完了したものの、公園整備は清水の海浜公園整備の後となり、遊水地は美田から葦がうっそうと茂る不気味な場所に変貌したのです。ちなみに海釣り公園として設置されたメガフロートは、2011年5月静岡県から東電に提供され福島第1原発の汚染水貯留のお役に立っ

ています。

てんかんのある人は、発作が止まったとしても必ずしも就職できるわけではありません。てんかんは発作だけでなく種々の障害をもたらすことがあります。昨年3月、そのような実情を県議会で取り上げてもらう機会を得ました。当院の立地は、隣に県立こども病院、それぞれが中央特別支援学校(肢体不自由)と、北特別支援学校(知的障害)に接し、2~300mほど先には高齢者施設が2つあるという、医療・福祉を特徴とする地区です。この特徴を生かすべく、当院院長とこども病院長の連名で「静岡市医療・福祉特区 <ふじのくに福祉バレー> 構想」を起草し、県議会で大きく取り上げられ県知事の理解を得るに至りました。ドイツにある世界最大規模のてんかんセンターである、ベートルてんかんセンターを習い、住民と障害のある人が一体となった街づくりを基本理念の一つとしました。

そんな中、一度は中断していた麻機遊水地の整備が、第3工区のごく一部病院の目の前の1haで、福祉と自然の関わりをテーマに進められることになったのです。第3工区はふじのくに福祉バレー構想の一部に属することから、検討部会は「ベートル麻機部会」と名付けられました。

希少動植物の保護、福祉園芸・農園の運営、A型作業所とカフェの運営とその場を利用した職業体験・訓練、イベント開催などを、障害のある人と入院中の患者さん、地域住民、企業が協力して築きます。いずれは流通センター内の企業で障害のある人の職業体験や実習、雇用も視野に入っています。

地域連携とリハビリテーションの強化というてんかんセンターとしていずれも重要な課題を、地域や行政と一体となり、未年にならい大切に育てたいと思います。(統括診療部長 久保田 英幹)



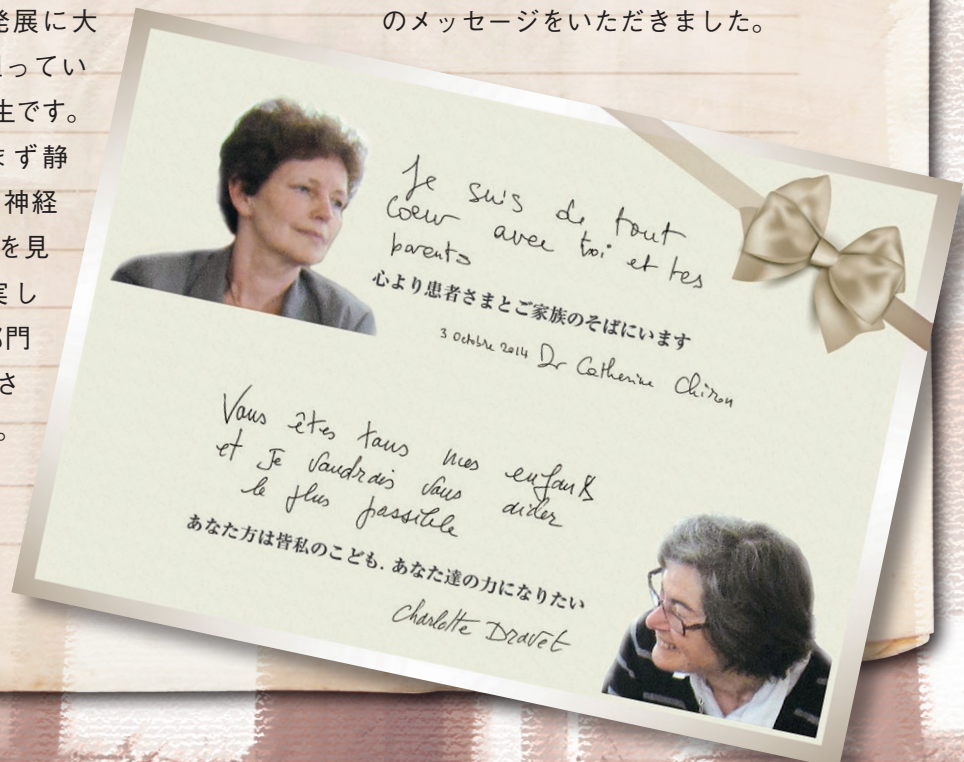
フランスからのメッセージ 生理・薬理研究室長 池田 浩子

Charlotte Dravet(シャルロット・ドラベ)先生とCatherine Chiron(カトリーヌ・シロン)先生が静岡てんかん・神経医療センターに来てくださいました。シャルロット・ドラベ先生は、フランスのマルセイユにあるサン・ポール病院でレノックス・ガストー症候群をはじめさまざまなてんかん症候群を研究されてきました。特にドラベ症候群(乳児重症ミオクロニーてんかん)については、脳波・臨床的な観点からその詳細を明らかにされたことが高く評価され、ドラベ先生の名前がつけられています。シロン先生はドラベ症候群に有効であるスチリペンツール、あるいは日本では未承認ですがビガバトリンなどによる難治てんかんの治療に関する研究で多くの業績を残し、現在もその発展に大きな役割を担っている先生です。

当日は、まず静岡てんかん・神経医療センターを見学、特に充実した脳波検査部門を高く評価されていました。その後はドラベ症候群の患者さまと

そのご家族や、日々ドラベ症候群の診療に携わる理学・作業療法士にも直接会い、疑問や問題に対して貴重なアドバイスをくださいました。真剣に、しかし優しい笑顔を絶やさず患者さんと会話されている両先生方の姿はとても印象的で、そこには日本とフランスの国境はありませんでした。また、医療スタッフとのディスカッションでは、ドラベ症候群をはじめとする治療の難しいてんかんについて、フランス・イタリアにおける治療方法やケアに関するお話をたくさん伺うことができ、とても興味深く診療にも役立つものでした。

最後に、両先生より静岡てんかん・神経医療センターでてんかんと向き合っているこどもさんとそのご家族へのメッセージをいただきました。



「病院フェア」が 開催 されました

管理課長 成田 博

「病院フェア」が今年も10月22日水曜日に開催されました。平成13年10月に国立療養所静岡東病院と国立静岡病院が統合し静岡神経医療センターになったことを記念し、以前は「看護フェア」として毎年10月に開催されていましたが、平成23年10月からは「病院フェア」として開催されています。

「健康チェック」「骨密度測定」「栄養相談」「リハビリコーナー」「手洗い体験」「お薬相談」等の各ブースには沢山の方々が来訪され、積極的に体験したり、熱心に説明を聞く様子がみられました。

また、検査や放射線の機器を紹介する掲示に見入るなど、健康や医療に対する関心の高さが感じられました。

AEDコーナーでは元消防士の方の指導の下、多くの方がダミー人形を使って心臓マッサージやAED実施等の貴重な体験をされ、「作品展示」コーナーには細かな手作業で作り上げられた患者さまの作品が展示されました。

ホスピタルクラウンからバルンアートのプードルや花などをプレゼントされた子どもたちには笑顔が溢れ、風船の剣で早速チャンバラごっこをする兄弟もいました。

来年も10月に開催を予定しております。病院ホームページでお知らせしますので是非とも多くの方々にお越しいただきたいと思っております。



セミナーと研修

当院ではさまざまな研修活動を行っています。セミナーのプログラムなど当院ホームページ「セミナーと研修」で紹介しています。

医師・医学生対象

小児てんかん学研修セミナー
平成26年1月開催 参加41名

成人てんかん学研修セミナー
平成26年8月開催 参加27名

冬は「小児」、夏は「成人」のてんかん診断・治療に関するセミナーです。年2回開催しています。

医療職・福祉職・教育職対象

てんかん専門職セミナー(成人てんかん)
平成26年8月開催 参加50名

てんかん専門職セミナー(小児てんかん)
平成26年8月開催 参加48名

冬は「成人てんかん」、夏は「小児てんかん」をテーマにし開催しています。

看護師対象

てんかん看護セミナー
平成26年10月開催 参加38名
毎年10月頃開催しています。

脳波検査を行う臨床検査技師対象

臨床検査セミナー
平成26年11月開催 参加17名

神経内科とA2病棟の紹介

A2病棟 看護師長 横地 早苗

Q1. 神経内科はどんな病気を扱う科ですか？

A 神経内科は、脳・脊髄・神経・筋肉の病気をみる内科のひとつです。体を動かしたり感じたりすることや、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなった時に神経内科の病気を疑います。神経内科の病気には、脳卒中・認知症・てんかん・パーキンソン病など一般的に知られている病気がありますが、「神経難病」と呼ばれる、治療法が確立していない病気も多くあります。

Q2. 神経内科の病気には、どんな症状がありますか？

A めまい、うまく力が入らない・しびれる、歩きにくい・ふらつく・つっぱる、ひきつける・けいれんする、食べ物や飲み物や唾液(つば)にむせる、しゃべりにくい・ろれつが回らない、物が二重に見える、勝手に手足が動いてしまう・ふるえる、もの忘れがある。など様々ですが、症状だけでは何の病気かはわかりません。最初は整形外科や内科、眼科、精神科などに相談することもあります。神経内科の病気かどうかは詳しく検査をしないとわからないのです。

Q3. 神経内科は他の科とどのように違いますか？

A 科の名称がまぎらわしく、間違われやすい科としては、精神科・精神神経科・神経科・心療内科、などがあります。神経内科は精神的な問題ではなく、脳・脊髄・神経・筋肉に病気があり体が不自由になる病気を扱っています。精神科の場合は、ほとんどは脳に異常を見つけられませんが、神経内科では脳を見ると何かしらの病気の証拠が見つかることが多いのです。

Q4. 神経内科病棟に入院する目的と入院期間はどれくらいですか？

A 症状から神経内科の病気を疑い、精密検査をする目的で入院する場合は、検査に2～3週間程かかります。症状の悪化があり薬の調整など治療目的で入院される場合は月単位の入院が必要になる事もあります。また、体の動きが悪くなり自宅での生活が難しくなった場合などにリハビリテーションを行なう目的で入院をされる場合も経過によっては長期になる事もあります。

A2病棟は神経内科疾患の患者さんが入院する病棟です。体の動きが悪くなる病気が多いので大部屋(4人床)にもトイレと洗面台が設置されております。また、ベッドは電動で体圧分散マットを使用しており患者さんの負担をできる限り少なくする配慮をしています。病棟見学のご希望がございましたら電話でお問い合わせください。病棟内の設備などをご案内させていただきます。

看護師さんを募集しています！

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り ②非常勤職員（外来、通所事業、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@hosp.go.jp

秋まつり

B2病棟保育士
徳田 幸



10月8～9日の2日間、重心病棟ウッドデッキにて秋まつりが開催されました。当日は、各病棟、栄養管理室、病院内わかさ学級、療育指導室から屋台が出店されました。患者様は祭囃子を聞きながら、いろんな屋台のゲーム、綿あめ、チョコバナナを楽しみました。

さて、今年の秋まつりのメインイベントは、病棟対抗のお神輿大会!! 各病棟で手作りのお神輿を披露しました。B1病棟は「森」をイメージしたもので、動物やきのこ、野菜がいっぱいのかわいいお神輿。綿や新聞紙などいろんな素材で作り、患者様が触って感触を楽しむこともできます。C1病棟の御神輿は、患者様が握って丸めたお花紙がまるで紅葉のようです。折り鶴や花まりは職員全員で作りました。B2病棟は果物が実ったおいしそうなお神輿。患者様が花紙を丸め、ぶどうの実を表現しました。C2病棟は豪華絢爛金びかのお神輿。周りについている飾りのにんじんは、患者様が紙粘土を握って作ったものです。

どの病棟も病棟のカラーが出ている素晴らしいものでした。この日のために、午後の活動の時間を使って患者様と職員が力を合わせて工夫をこらしてお神輿の制作に取り組むことができ、秋まつりの日まで皆で期待感を持って過ごすことができました。

「わっしょい! わっしょい!」元気なお神輿のかけ声、応援する声、笑い声、そしてときどき綿あめのあまい香り…やっぱりお祭りは楽しいなあ。来年はどんな秋まつりになるのでしょうか? また、皆で力を合わせて楽しいお祭りにしましょう!!



新人自己紹介

脳神経外科医師

近藤 聡彦

2010年4月から約1年9ヶ月、当院で研修を積み、井上院長のお取り計らいで2012年1月から1年間、フランスのリヨン大学でてんかんの外科治療について学ぶ貴重な機会を頂きました。帰国後、昨年9月まで岡山大学病院に勤務しておりましたが、このたび縁あってこちらに戻って参りました。

これまでの経験を生かし、静岡だけでなくこれからの日本のてんかん外科の発展のため、及ばずながら尽力したいと思います。みなさん、宜しくお願いいたします。

トピックス

井上 有史 院長が テレビ出演しました。

井上院長が、NHK「きょうの健康」へ出演し「てんかん」についてお話しました。
(2014年10月21日(火)放送)

内容は「きょうの健康 テキスト 2014年10月号」に紹介されています。

また、インターネットで「きょうの健康 NHK」を検索すると掲載されています。



外 来 再 診 の 診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山 崎	臼 井桂	山 崎	臼 井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今 井		井 上		松 田
第4診察室		鳥 取	日 吉		日 吉
第5診察室	池 田仁	池 田浩	池 田浩	寺 田清	寺 田清
第6診察室	芳 村			芳 村	松 平
第7診察室		荒 木			那 須
第8診察室		西 田	高 橋		
第9診察室	重 松			大 谷	大 谷

神 経 内 科

	月	火	水	木	金
第10診察室		小尾	小尾		小尾
第11診察室	杉浦		杉浦		馬場國

特 殊 外 来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広 報 誌 編 集 委 員 会

編 集 人 ■

寺田 清人	高嶋 春美	鈴木 淑夫
高橋 昌明	佐倉 裕二	傍島 隆
中神 基充	堀 友輔	高橋 輝
春名 令子		

発 行 ■ 平成 27 年 1 月 20 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からかわいい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,625円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

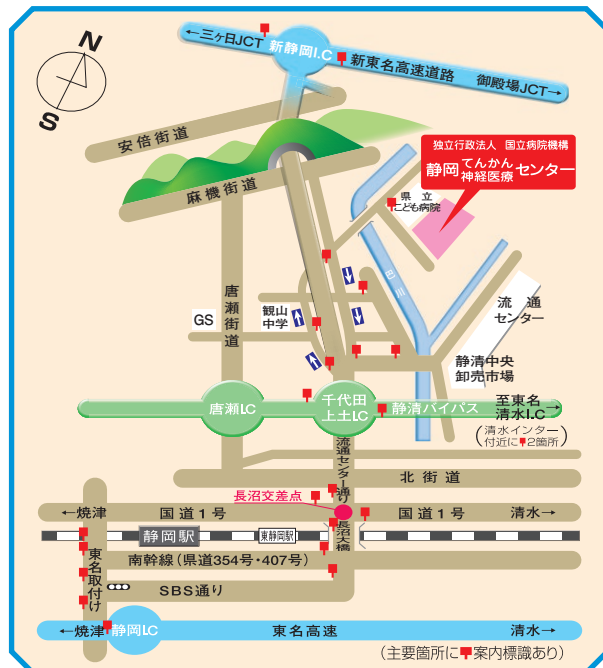
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から - 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。 - 御殿場JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	名古屋方面から - 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。 - 三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

BOOK

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第5版)

【日本てんかん協会、2014年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q&A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●稀少難治てんかん診療マニュアル

～疾患の特徴と診断のポイント～

【診断と治療社、2014年】

稀少難治てんかんの特徴と診断のポイントから、検査、治療、予後まで詳しく概要をつかめるよう約3～4ページにポイントを絞った。発作時の脳波図、発作の鑑別フローチャート、鑑別疾患を比較した表をレイアウトし、視覚的に分かりやすく稀少難治てんかんを解説した。診断、治療のマニュアルの項目の冒頭には短く「ポイント」をまとめた。稀少難治てんかんにかかわる小児科医、神経内科医、脳神経外科医などに役立つ書。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●てんかん専門医ガイドブック

～てんかんにかかわる医師のための基本知識～

【診断と治療社、2014年】

てんかん専門医試験を受験する医師のみならず、てんかんにかかわるすべての医師必携のガイドブック。概念や分類、病因、診断、検査、治療などの総論から、新生児から高齢者まで各年代別の重要なてんかんや遺伝子研究結果に基づく特殊てんかんの最新知識、外科治療などを解説した各論に続き、妊娠、運転、生活支援についても具体的に紹介。臨床てんかん学の内容をコンパクトにまとめた実践的な一冊。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)